1 題材名 ともだちといっしょに すてきなところへおさんぽにいこう (立体)**2 題材について**

粘土遊びは、児童が創造する力や工夫する力を培っていく上で、欠かすことのできない遊びである。ああしてみよう、こうしてみようと粘土と触れ合う中で粘土の特性を体感し、やり直しのきく自由な形づくりの楽しさをたっぷり実感してほしい。思いついたものを形にしていって楽しさや満足感を味わうことにより、自分のアイデアや考えに自信をもち、いろいろな場での豊かな発想力や表現力につながるであろうと思われる。

学習指導要領では、第1学年及び第2学年の目標として、(1)「対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付くとともに、手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする」(2)「造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考え、楽しく発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする」(3)「楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う」と示されている。この目標を受けて、内容 A 表現(1)イ「絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けることや、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること」とある。散歩をする自分と、一緒に散歩したら楽しいと思う仲間を想像して立体に表すことで、立体としての力強さを感じるとともに、単体のものをつくることとは違う発想の広がりをねらいとしている。

指導に当たっては、普段から朝自習などの時間を使って、油粘土で「粘土体操」を行い、何度も粘土の感触を楽しんだり、粘土で簡単な形をつくったりすることで、本題材の活動がスムーズにできるようにする。指先だけの活動で終わってしまわないように、粘土を全て出して活動する。また、題材に合わせた大きさの粘土玉をつくってから始めることで極端に小さな作品にならないようにする。授業の1時間目には、児童の発想を引き出すための生き物クイズを行う。生き物のシルエットや特徴を拡大した写真や絵を見せ、クイズ形式にすることで、写真や絵から生き物の特徴や形に注目し、自分が表現したいものが何か発想を導き出すようにする。鑑賞では、立体ならではの色々な角度から見てみるということを促し、自分の作品を誰と、どこで、何をし、どうだったかと日記のように話せるようにしていきたい。

3 題材の目標

- (1) 一緒に散歩にいきたい仲間を思い浮かべて粘土で表すときの感覚や行為を通して、いろいろな形などに気付く。粘土、粘土べらに十分慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表すことができる。 (知識・技能)
- (2) いろいろな形などを基に、自分のイメージをもちながら、散歩に出かける様子を想像したことから表したいことを見付け、好きな形を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えることができる。自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げることができる。 (思考・判断・表現)
- (3) つくりだす喜びを味わい楽しく一緒に散歩に行きたい仲間を思い浮かべて粘土で表す学習活動に取り組む

うとしている。

(主体的に学習に取り組む態度)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○一緒に散歩に行きたい仲間を思い浮かべて粘土で表すときの感覚や行為を通して、いろいろな形などに気付いている。 ○粘土、粘土べらに十分慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表している。 (創造的技能の内容)	○いろいろな形などを基に、自分のイメージをもちながら、散歩に出かける様子を想像したことから表したいことを見付け、好きな形を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えている。 ○いろいろな形などを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 (発想・構想、鑑賞の能力の内容)	○つくりだす喜びを味わい楽しく一緒に散歩に行きたい仲間を思い浮かべて粘土で表す学習活動に取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度の内容)

5 指導と評価の計画(5時間扱い)

時間	ねらい・学習活動	評価の観点、評価の方法等				備考
		知	技	思	態	
		知識	技能	発想や構想	鑑賞	
1	○「生き物クイズ」を行い、様々な生き物の特徴や形のイメージを膨らます。 ○「おさんぽ」というキーワードから、だれとどこに行き何をしたか考える。			○	◎ 観察	1時間目は「主体的に学習に取り組む態度」に重点を置き、児童の学習状況を把握し、指導に生かす。
2	○ウェビングマップでなかよしとどこで何をしたいかのイメージを広げる。 ○粘土体操をして、次時に作品を作る準備をする。			◎ ウェビングマップシート		2時間目は「思考・判断・表現」の発想や構想に重点を置き、児童の学習状況を把握し、指導に生かす。
3	○誰とどこへ行きたいかを考えながら、粘土の塊からひねりだして「ともだち」「じぶ	◎ 観察 作品	◎ 観察 作品	○	○	3時間目は「知識・技能」に重点を置き、児童の学習状況を把握し、

	ん」をつくる。						指導に生かす。
4 (本時)	○「おさんぽ」の情景を思い浮かべながら、頭、体、手足の動きや表情をつける。 ○つくりながら思い付いたことを付け足すなどして、さらにイメージを広げる。 ○「おさんぽ」の様子が分かるように、作品の置き方や並べ方を工夫する。	○ 観察 作品	○ 観察 作品	◎ 観察作 品		○	4時間目は「思考・判断・表現」に重点を置き、児童の学習状況を把握し、指導に生かす。
5	○作品を見ながら自分や友達の作品のおもしろさや楽しさを見つける。 ○絵日記のように紹介できるように原稿に書く。				◎ ワーク シート 絵日 記	○	5時間目は「思考・判断・表現」の鑑賞に重点を置き、児童の学習状況を把握し、指導に生かす。 さらに、「主体的に学習に取り組む態度」は、活動全体を通して把握し、最後に記録を残す。

6 材料と用具

材料	用具
土粘土	粘土板、粘土べら、雑巾、新聞紙、竹串、手ぬぐい、霧吹き、どべ用の皿

7 本時の指導

(1) 目標

- 粘土を丸めたり伸ばしたりねじったりつまみ出したりして、様々な方法で試しながら、粘土でできるいろいろな形に気付くことができる。(知識・技能)
- 自分のイメージをもちながら、散歩に出かける様子を想像したことから表したいことを見付けることができる。(思考・判断・表現)

(2)展開(3・4/5)

学習活動と内容(・)	教師の支援(○)及び評価(◆)	資料 材料・用具
1 前時のウェビングマップを振り返り、活動への意欲をもつ。 ・ゾウの背中に乗って出かけたいな。 ・ドラゴンと空をとべたら気持ちよさそう。 ・家のいぬと広い野原でおさんぼしたい。	○ウェビングマップに書いていないものもどんどん増やしていいようにし、考えが詰まってきたときは、掲示物や大型テレビにうつす写真を参考にするように伝える。	・生き物の写真の掲示物 ・大型テレビ
おさんぼの様子をうかべながら、じぶんと「ともだち」をもっとなかよしにしよう。		
2 作品をつくる。 ・手や足を曲げて動いているみたいになろう。 ・鼻の長いゾウさんにしたいから、粘土を細長くしたいな。 ・「自分」が立たないから足に粘土を足してみよう。 ・ドラゴンの背中にしがみついているようにしたいな。 4 今日の活動の振り返りを行う。 ・ゾウの鼻がすごい長くつくってあるね。 ・たてがみが目立つからすぐライオンだってわかるね。 5 後片付けを行う。	○例で教師の作品の体や手足を動かし、よりおさんぼの情景がうかぶような作品になるように声をかける。 ○「ともだち」の特徴を表現するために粘土体操で学んだ技能を思い出すように声をかける。 ○ひねりだしが難しい児童には、教師と一緒につまむ方法をやってみるなど、個々に対応する。 ○初めからうまくいかなくても、粘土は何度でもやり直せることを感じ取らせ、安心して活動できるように、声をかける。 ○上手く立たせることができない児童には、足に粘土を多くつけるように声をかける。 ◆粘土を丸めたり伸ばしたりねじったりつまみ出したりして、様々な方法で試しながら、粘土のできるいろいろな形に気付くことができる。 (知識・技能) ◆自分のイメージをもちながら、散歩に出かける様子を想像したことから表したいことを見付けることができる。 (思考・判断・表現) ○グループで作品を見せ合いながら、友達の作品の良いところを見つける。 ○次時に自分と「ともだち」が出かけたことを絵日記にかくことを伝える。	・土粘土 ・粘土板 ・粘土べら ・竹串 ・どべ用の皿